

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称

S400CF アルカリ性洗剤 C14

供給者の会社名称、住所及び電話番号

会社名 キヤノンメディカルシステムズ株式会社

住所 栃木県大田原市下石上 1385 番地

担当部門 IVD SCM センター 検体検査システム SCM 部

電話番号 0287-26-6327

推奨用途

アルカリ性洗剤

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類

物理化学的危険性：分類できない。

健康に対する有害性：皮膚腐食性／刺激性 区分 2

眼に対する重篤な損傷・刺激性 区分 1

皮膚感作性 区分 1

特定標的臓器毒性（単回ばく露）区分 2（中枢神経系、呼吸器、肝臓）

特定標的臓器毒性（反復ばく露）区分 2（中枢神経系）

環境に対する有害性：区分に該当しない。

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル：



注意喚起語：危険

危険有害性情報及び注意書き：

皮膚刺激

重篤な眼の損傷

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

臓器（中枢神経系、呼吸器、肝臓）の障害のおそれ

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器（中枢神経系）の障害のおそれ

注意書き【安全対策】 取り扱い後は皮膚をよく洗うこと。

保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

【応急措置】 皮膚に付着した場合：多量の水と石けんで洗うこと。

皮膚刺激または発しん（疹）が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。

気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。

【保管】 施錠して保管すること。

【廃棄】 内容物／容器を関連法規並びに都道府県／市町村の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名

| 成分 | 官報公示整理番号 (化審法・安衛法) | CAS No. | 含量 (%) |
|------------|-----------------------|----------|-----------|
| 2-アミノエタノール | (2)-301 | 141-43-5 | 3.48 w/w% |

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

必要に応じて医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

すぐに多量の水と石けんでやさしく洗うこと。

直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。皮膚を流水、シャワーで洗うこと。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。

外観に変化が見られたり、水疱、痛み、皮膚刺激等の症状が出た場合は、医師の診断／手当てを受けること。

眼に入った場合

清浄な水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。必要に応じて医師に連絡すること。

飲み込んだ場合

清浄な水で口の中をよくすすぐこと。無理に吐かせないこと。直ちに医師に連絡すること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

情報なし。

応急措置をする者の保護に必要な注意事項

個人用保護具を着用すること。

医師に対する特別な注意事項

情報なし。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、乾燥砂類

使ってはならない消火剤

情報なし。

火災時の特有の危険有害性

不燃性であり、それ自身は燃えないが、加熱されると分解して、腐食性及び／又は毒性の煙霧を発生するおそれがある。火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法

消火活動は風上から行う。

危険でなければ火災区域から本品を移動する。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

適切な空気呼吸器、防護服（耐熱性）を着用し、安全な場所から消火活動を行う。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

密閉された場所の場合、立ち入る前に換気する。屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の際には、適切な保護具を着用し、皮膚、眼への接触や吸入を避ける。

環境に対する注意事項

漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。汚染された廃水が適切に処理されず環境へ排出しないよう注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

吸着剤（ペーパータオル等）に吸着させ、取り除いた後、水でよく拭き取る。

密閉できる容器に回収し、後で廃棄処理する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

保護眼鏡、保護手袋、保護衣等の適切な保護具を着用する。

安全取扱注意事項

眼、皮膚、又は衣類につけないこと。

取扱い後の休憩時には、手をよく洗うこと。

休憩場所には、手袋等の汚染された保護具を持ち込まないこと。

みだりにエアロゾルが発生しないように取り扱うこと。

飲み込まないこと。

接触回避

「10. 安定性及び反応性」の項を参照。

衛生対策

情報なし

局所排気・全体換気

情報なし

保管

安全な保管条件

室温（1 ～ 30℃）に保存する。

凍結させないこと。

安全な容器包装材料

本品に使用されている容器にて保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度等

管理濃度：設定なし。

許容濃度：日本産業衛生学会（2005 年）2-アミノエタノール 3ppm 7.5 mg/m³

設備対策

本品を扱う作業場には、洗眼器、安全シャワー、全体換気装置、局所排気装置を設置すること。

保護具

呼吸用保護具

適切なマスクを着用する。

手の保護具

適切な保護手袋を着用する。

眼、顔面の保護具

適切な保護眼鏡を着用する。

皮膚及び身体の保護具

白衣その他、検査を行うに適切な服装をする。

特別な注意事項

衛生対策： 本品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

保護具は保護具点検表等により定期的に点検すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態

形状：液体

色

無色透明

臭い

無臭

融点／凝固点

データなし

沸点又は初留点及び沸点範囲

データなし

可燃性

燃焼性（固体、気体）：該当しない

爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界

爆発範囲下限：該当しない、上限：該当しない

引火点

該当しない

自然発火点

該当しない

分解温度

データなし

pH

約 11.4

動粘性率

粘度（粘性率）：データなし

溶解度

データなし

n-オクタノール・水分配係数（log 値）

データなし

蒸気圧

データなし

密度及び／又は相対密度

蒸気密度（空気=1）：データなし

比重（相対密度）：データなし

相対ガス密度

データなし

粒子特性

データなし

10. 安定性及び反応性

反応性

情報なし

化学的安定性

1 ～ 30℃の保存で安定

危険有害反応可能性

酸と反応するとき発熱する。

避けるべき条件

高温、直射日光、熱、炎、火花、静電気、スパーク

混触危険物質

強酸化剤、強酸。銅、アルミニウムあるいはこれらの合金。

危険有害な分解生成物

自己分解性はない。火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。

11. 有害性情報

（製品としての有害性情報）

急性毒性

情報なし

皮膚腐食性／刺激性

含有成分の分類計算結果から区分 2 とした。

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

含有成分の分類計算結果から区分 1 とした。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

皮膚感作性：含有成分の分類計算結果から区分 1 とした。

生殖細胞変異原性

情報なし

発がん性

情報なし

生殖毒性

情報なし

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

含有成分の分類計算結果から区分 2（中枢神経系、呼吸器、肝臓）とした。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

含有成分の分類計算結果から区分 2（中枢神経系）とした。

誤えん有害性

情報なし

(成分データ：2-アミノエタノール)

急性毒性

(経皮) 区分 4

皮膚腐食性／刺激性

区分 1A

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

区分 1

呼吸器感作性又は皮膚感作性

皮膚感作性 区分 1

生殖細胞変異原性

情報なし

発がん性

情報なし

生殖毒性

情報なし

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

区分 1（中枢神経系、呼吸器、肝臓）

区分 3（麻酔作用）

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

区分 1（中枢神経系）

区分 2（呼吸器）

誤えん有害性

情報なし

12. 環境影響情報

(製品としての環境影響情報)

生態毒性

含有成分の分類計算結果から「区分に該当しない」とした。

残留性・分解性

含有成分の分類計算結果から「区分に該当しない」とした。

生態蓄積性

含有成分の分類計算結果から「区分に該当しない」とした。

土壌中の移動性

含有成分の分類計算結果から「区分に該当しない」とした。

オゾン層への有害性

含有成分の分類計算結果から「区分に該当しない」とした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。又は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理する。廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。

本品を用いての試験後の廃液にはヒト由来検体が含まれるため、ウイルス等による感染を考慮する必要がある、本品の添付文書等を参照し、消毒等の処理後廃棄する。

汚染容器及び包装

容器は、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。又は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理する。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

| | |
|--------|------------------|
| 陸上規制情報 | ADR・RIDの規定に従う。 |
| 海上規制情報 | IMOの規定に従う。 |
| 航空規制情報 | ICAO・IATAの規定に従う。 |
| UN No. | Not applicable. |

国内規制

| | |
|--------|----------------------|
| 陸上規制情報 | 消防法、毒劇及び劇物取締法の規制に従う。 |
| 海上規則情報 | 船舶安全法の規定に従う。 |
| 航空規制情報 | 航空法の規定に従う。 |
| 国連番号 | 該当しない。 |

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策

取扱い及び保管上の注意の項に従うこと。

輸送中に容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載すること。

容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬すること。

容器の破損等で漏洩があった時は、側溝、河川あるいは湖沼への流出を防ぐ措置を講ずることが望ましい。

15. 適用法令

労働安全衛生法：

2-アミノエタノール／表示・通知義務対象物質（政令第18条の2別表第9のNo.21、表示義務1重量%以上、通知義務0.1重量%以上）

化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）：

2-アミノエタノール（第1種指定化学物質No.20、1質量%以上適用）

毒物及び劇物取締法：

非該当（2-アミノエタノール 劇物指定物質No.4の3、ただし20%以下のため適用外）

16. その他の情報

記載内容は、現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成されておりますが、新しい知見により改訂されることがあり、含有量、物理化学的性質、危険、有害性等に関しては、内容を保証するものではありません。

又、注意事項は通常の手扱いを対象にしたものなので、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。